

## 2019年 8月度 売上速報

## ■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	107.3
阪神梅田本店	96.1
支店計	98.1
全店計	102.9

## ○ 全店の概況

- ・ ①台風10号による閉店繰上げ等の売上高に対する影響度は、月合計売上高に対し、▲1.5%。
- ・ ②土曜日1日増の売上高における影響度は、+1.0%
- ・ 梅雨明けから猛暑が続き、パラルやサンダル、サングラスやワンピースなど盛夏商材が好調に推移するとともに、海外ブランドの秋冬の新作も活発で、プロパー商品好調。また、インバウンドは、韓国人観光客が大幅減も、売上シェアの高い中国人観光客の売上が好調に推移し、堅調。結果、台風の影響をカバーし、月トータルは103%と7ヶ月連続で前年実績をクリア。
- ・ 阪急本店は、国内需要において、海外ブランドを中心に秋冬ファッションが活発に動き好調。インバウンドも順調な動き。
- ・ 阪神梅田本店は、第1期棟オープン(昨年6月)景気が昨年8月まで続き、前年割れとなるも、ターゲットとしている30～40代の女性客は引き続き増加傾向。
- ・ 支店は12店舗中4店舗が前年実績をクリア。

## ○ 阪急本店の概況

- ・ 海外ブランドを中心に秋冬の新作商材が好調。また、パラル(118%)やサングラス(125%)などの夏物も好調に推移。全館連動のスヌーピーコラボレーションイベント「ヒーナツグYM sports&wellness」(8/14～27)も好調で集客に大きく寄与。
- ・ 100万円以上の高額品(147%)は、海外ブランドのジュエリーや時計など高単価の商材が動き好調。
- ・ インバウンド(106%)は、韓国からの観光客は大幅減も、売上シェアの高い中国からの観光客を中心に、海外ブランドのバッグが牽引した一般品(107%)、化粧品、食品など消耗品(103%)ともに順調。
- ・ 阪急メンズ大阪は、インターファッション(117%)を中心にTシャツなどのカジュアル衣料が人気で、好調継続。

## ※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2018年度							2019年度					
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
阪急本店	108.7	100.6	106.8	100.0	107.2	99.6	104.7	103.6	104.6	100.4	112.0	103.8	107.3
阪神梅田本店	96.1	84.0	93.2	88.8	91.7	83.4	96.9	89.9	84.9	100.5	85.9	95.9	96.1
支店計	107.0	105.7	106.6	101.5	102.7	98.2	97.2	99.9	101.2	99.7	102.7	97.9	98.1
全社計	106.6	99.8	105.0	99.2	103.9	97.2	101.2	100.7	101.0	100.2	105.3	101.0	102.9

## ■ 食品事業

イズミヤ	売上高前年比(%)
全社計	97.9

阪急オアシス	売上高前年比(%)
全社計	95.6

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

＜本件に関するお問合せ先＞  
 エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 広報室 TEL:06-6367-3181